屋久島旅行

平成20年4月13～16日
撮影・編集　山本哲雄

今回の屋久島旅行は昨年8月「行きたい山や観光地は、人それぞれに違いますが体が元気な内に行ける所はもう限られます。屋久島などはその一つではないでしょうか。？」と市川さんの提案があり、11月に参加者募集を行い準備を進めてきた旅行で、あれそれ会として第5回目となる旅行であった。　屋久島は1ヶ月の35日は雨の降る島といわれるほど雨量の多いところで、屋久島の標高1300m地点にある縄文杉を見に行くには、体力も必要だが雨対策が重要と考え、事前に情報を交換しながら用意した。

＝　行　程　＝

13日　羽田空港－鹿児島空港－鹿児島港－種子島－西之表港－（遊覧バス）鉄砲博物館
種子島宇宙センター－　種子島いわさきホテル泊

14日　（遊覧バス）千座の岩屋－西之表港－宮之浦港（屋久島遊覧バス）－ガジュマル園－
白谷雲水峡-千尋の滝－屋久島いわさきホテル

15日　オプションツアー「縄文杉への登山」　4時半出発　・ガイド2名　中馬慎一郎　・日高　敏郎
屋久島いわさきホテル

16日　（屋久島遊覧バス）ヤクスギランド－紀元杉－安房港－鹿児島南港－空港－羽田空港

4月13日（日）出発　羽田発SNA71便（8時35分）

機上から見えた雲上に頭を出す富士山

鹿児島に到着（10時35分）

路面電車が走る鹿児島市内

昼食（鹿児島南港待合室）12:00

高速船「トッピー」種子島行き（12:50）

鹿児島湾からの開聞岳（13:40）

種子島　鉄砲博物館（14:45）

1543年（天文12）1隻の明の船が門倉岬に漂着した。
　当時の島主であった種子島時たかは、その鉄砲の威力を知るやいなや2丁買い入れ、早速刀鍛冶の八板金兵衛に鉄砲の製作を命じた。そして天文13年、苦労の末、ついに国産の鉄砲が誕生したのである。
鉄砲の完成には金兵衛の娘「若狭」の秘話も口碑として語り継がれている
［月も日も大和の方ぞ懐かしき　わが両親（ふたおや）のあると思えば」

ツマベニチョウのさなぎ

夫婦岩（車窓から）

車窓から　（西海岸）

マングローブとは
メヒルギの群生など
熱帯・亜熱帯地域の
沿岸や河口に生育
する植物の総称の
ことをいうそうだ

種子島宇宙センター（16:20）

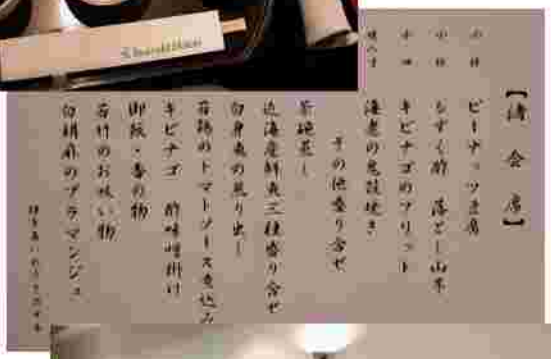
発射時には3km四方は立ち入り禁止となる。
正面の白い建物が展望台

種子島岩崎ホテルの部屋からプライベートビーチ

左の白い建物の中で組み立てられ、右端の
発射台へへ移動し打ち上げられる

種子島

この他に後から茶碗蒸し、白身魚、きびなごの酢味噌掛け、若鶏のトマトソース煮込み



焼酎「岩いずみ」の味は？

千坐（チクラ）の岩屋への開けた砂浜
引き潮の時には千人が胡坐を組んで入れる広さがあることから名づけられた）

満潮の時にはこの鳥居がつかるそうだ
（この日は非常にラッキーであった）

岩屋内部の波打ち際

ハイポーズ（いい潮時ではないかい？）

種子島波止場にて（無邪気に？）裕次郎撮影会

種子島からこのトッピーにて屋久島へ（9:24）

西之表港を後に
屋久島へ

平らな種子島
（最高地点は
282mしかない）

屋久島旅行2日目（4月14日）

種子島から屋久島

10時25分快晴の種子島から屋久島に近づくと山の上には雲、海岸は晴れ

ガジュマル園の案内

ガジュマルは熱帯産のイチジクの仲間で、アコウと同様幹から多数の気根をたれ、それが土着し、やがてはどれが元の幹か気根か区別できないようになる。屋久島が分布の北限である。ここ志戸子海岸林は屋久島の海岸における照葉、広葉樹植生の代表的な一型を占め、樹高約15mのガジュマルを主とし、ハマビワ、モクタチバナなどの樹木が繁り、これらにフウトウカズラ、サクララン等が絡み、林床にはクワズイモ、イシカグマ、オニヤブソテツ、タマシダ等のシダ類が盛んに繁茂している。海岸線では、シャリンバイ、トベラ、オオハマグルマ、キダチハマグルマ、テッポウユリ、ハマユウ、ウラジロフジウツギ、ハマウド、オイラン、アザミ、ハマヒルガオ等が生えている。

アコウの木は別名「絞め殺しの木」と言われているとおり木に巻きついている

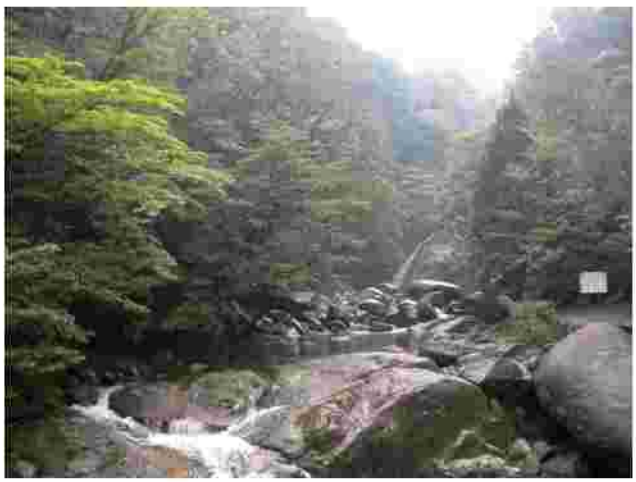
クワズイモ（毒があり食べられない）

タブの木にあこうとガジュマルが絡み合っている

昼食（飛魚と鯖節、さつま揚げの郷土料理）

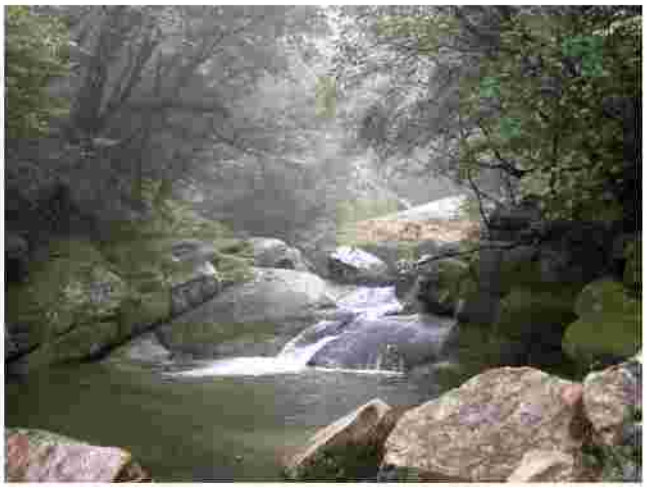
花崗岩の隆起した島「屋久島」の険しさが
良く見える（車窓から）

白谷川

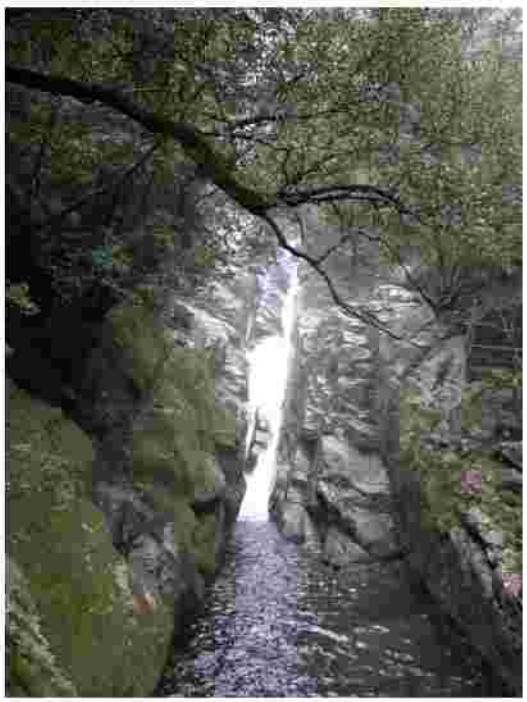


白谷雲水峡（13:40）（標高800m）

憩いの大岩



二代杉



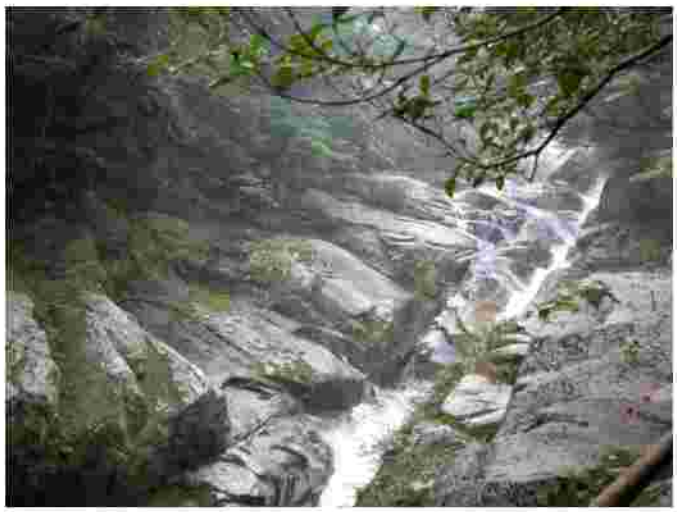
飛流橋から飛流おとしを

二代杉（切株更新）

この杉は切株の上に種子が落下して発芽生育した二代杉です。このようにして世代交替が行われることを切株更新といいます。

屋久島の山ではこのような杉がいたるところで見られます。まさに屋久島ならではの人と自然との営みが組み合わされた光景と言えましょう。

林野庁　屋久島森林管理署
2000.3

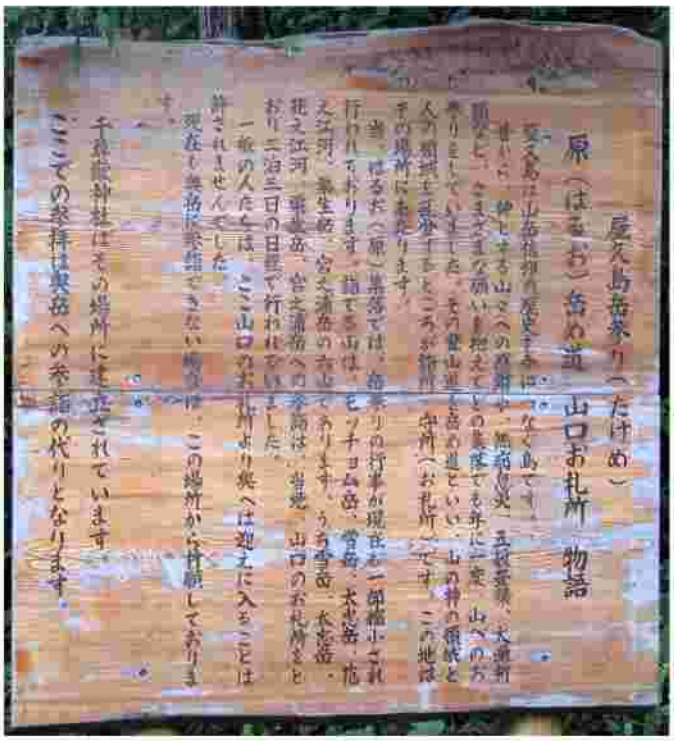


苔河原（14:00）

岩の上の苔が杉の親代わり

弥生杉:左側が枯れてきている
（まだまだ行き続けられるのだろうか）

弥生杉（14:30）
（26.1m、胸高周囲8.1m樹齢約3000年）



屋久島岳参り（たけめ）

原（はるお）岳の道　山口お礼所　物語

屋久島岳参り（たけめ）

原（はるお）岳の道　山口お礼所　物語

屋久島は山岳信仰が盛んであるように、なぜ島なのか、
誰いとゆかしき山々への憧れや、地形的な火、五穀豊穣、大漁祈願など、さまざまな願いを抱えてとの長旅でも身に沁む、山への力
参りとしていました。その霊山道と岳の道といい、山の神の領域と
人の領域をこの辺りとするところが祈所（おれいしょ）です。この地は
その境界にあたります。

当、はるお（原）集落では、岳参りの行事が現在も一部継承され
行われております。祭る山は、モッチョム岳、宮之浦、太忠岳、花
之江河、栗生岳、宮之浦岳の六山であります。うち宮之浦、太忠岳、
花之江河、栗生岳、宮之浦岳への参詣は、当地、山口のお礼所をと
おり二泊三日の日程で行われていました。

一般の人たちは、ここ山口のお礼所より奥へは絶対に入ることは
許されませんでした。

現在も参拝者が絶えない地域は、この場所から拝礼しております。

千尋滝神社はその場所に建立されています。

ここでの参拝は奥岳への参詣の代りとなります。

パパイヤ

（このあたりからカメラのセンサーが故障してしまった）

げじべえの里 十尋

げじべえの里 げじべえ由来書き

「げじべえ」って、なんなーつか（なんだろう）

「げじべえ」は、屋久島の山に住む妖怪です。
屋久島の山には、色々な妖怪がいます。その代表的なものが、
「げじべえ」「山姫」「山のもん」「川のもん」などです。

「げじべえ」は、森の精の妖怪で大木やきのこなどに住み着いています。
昔のきこりたちは、巨木などを切るときには、コまやソコなどを供え、
お神酒を振って、ことわりを言って切り倒しました。

その昔、木炭が重要なエネルギー源であった頃、
屋久島では炭焼きが盛んにおこなわれていました。
その炭焼き業の人たちも敬意を払い国有林を払い下げ
どんどん森を切っていったのです。

これに怒ったのでしょうか、「げじべえ」は山で炭を焼く人たちに
悪さをしないようにと仕掛けてきたのです。
それは、昔間に人たちがしていた事のまねをするのです。
まず、木によきを切込みを入れる。
そして、ノコで引き、矢を打ち込み、木が倒れる。
それを、本物とすりかも違えずに指摘してくるのです。

その倒れる木が炭窯にも引かたちのいる炭窯におちかかっと来るように
大変怖かったそうです。
このことは、自分たちの職業が脅かされていく事への「げじべえ」たちから
人間への警告の抵抗だったのかもしれません。

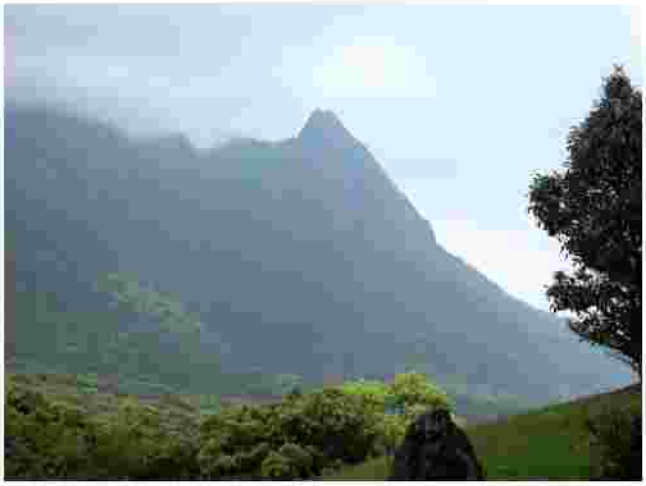
今でも屋久島の山、そしてこの森には多くの「げじべえ」たちがいて
私たちの行動を監視しています。
人間のわがままで山や森を傷つけると「げじべえ」はいたずらを仕掛けてきます。
「げじべえ」は決して私たちに害意は持っていないはずです。
私たちの思いや願いを聞いてくれるに違いありません。
あなたも「げじべえ」に語りかけてみてください。
何が聞こえてきませんか。

この山、この森とともに生きてきた先人たちの知恵と
これからの私たちのあり方を考えていきたいとの思いで
この地を「げじべえの里」と名づけました。

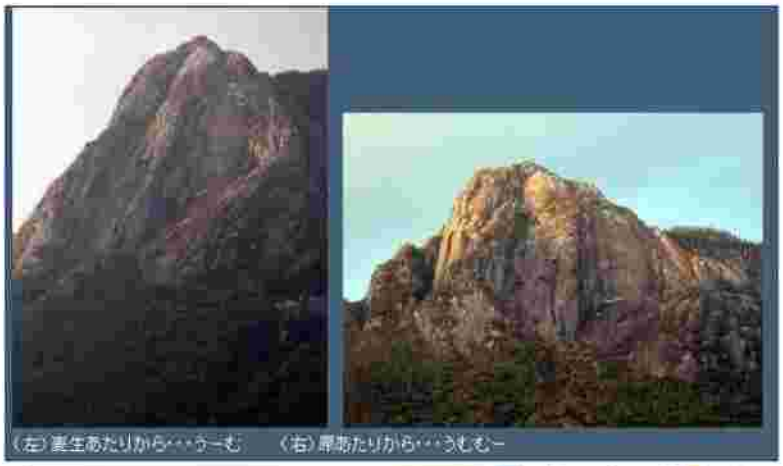
げじべえの里 十尋

千尋（せんぴろ）の滝

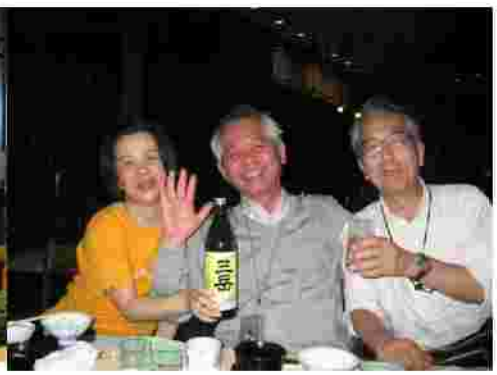
左の巨大岩は400m×200m



モッチョム岳（940m）
の名前の意味をバスガイドに聞いたら、運転手に聞いてくれと。。。



HPより借用



屋久島旅行3日目（4月15日）

いよいよ屋久杉の最も古い「縄文杉」へ向かう。
屋久杉は樹齢1000年以上のもので、それいかは「小杉」と呼ぶのだそうだ。
伐採は年貢として50cmx12cmx2cmの屋根材として切り出し2310枚で米一表となった

ホテルを4時半に出発し、標高900mへ車で登り、
朝食、準備体操をして5時50分出発

足取りも軽く2班に分かれて行進

小杉谷小・中学校跡（6:50）

小杉谷と屋久杉

小杉谷は、大正１２年に安房からの森林軌道が完成し、ここから約１kmほど上流（楠川歩道分岐のそば）に安房官行研伐所（昭和２１年にはこの地に移され、昭和２８年に小杉谷製品事業所と名を変える）が開設され伐採が始まりました。これに伴い、小杉谷で働く人々と家族の集落ができ、子弟のための学校も開設されました。

戦後ここから伐り出されたヤクスギは、戦後復興に利用され、また、昭和３０年代には、木材生産の増強が国民的要請となり、本格的なヤクスギの伐採が行われました。ここで働く人も増え最大時５４０人の集落となり、小中学校もできました。

昭和４０年代半ばには、自然保護の要請が高まる中、その使命を終えた小杉谷は、昭和４５年に閉山となり人々も山を去っていきました。

この周囲の森林はほとんどがヤクスギを伐採した跡ですが、自然の力に人が少し手を加えながら、元の原生的な森林へと整ろうとしています。

林野庁　屋久島森林管理署

7:15　小休止

歩道沿いにはたくさんの植物がみられます。ここから大株歩道入口までの間で、これらの植物をさがしてみてはいかがですか。

よく見られる主な草

ウラジロ・コシダ・オサシダ・キジノオシダ・ヒトツバ・マムシグサ・ヤクシマミヤマスミレ・ナガバヤブマオ・ヒメトキホコリ・キッコウハグマ・コケリンドウ　・ヒメコナスビ・ヤクシマオトギリ・チャボシライトソウ・ヒメツルアリドオシ

よく見られる主な木

モミ・ツガ・サクラツツジ・ハイノキ・ユズリハ・ヒメシャラ・アカガシ・ウラジロガシ・ヤマグルマ・イスノキ・ナナカマド・カクレミノ・アオツリバナ・ヤクシマツバキ・ホウロクイチゴ

林野庁　屋久島森林管理署

三　代　杉

THIRD GENERATION CEDAR

これが「三代杉」と呼ばれるスギです。一代目の倒木の上に二代目が育ち、二代目の切株の上に三代目が育っています。それぞれ「倒木更新」「切株更新」などといわれています。諸説があって明確ではありませんが、一代目の樹齢はおおよそ１，２００年、二代目が１，０００年、三代目が３５０年といわれています。

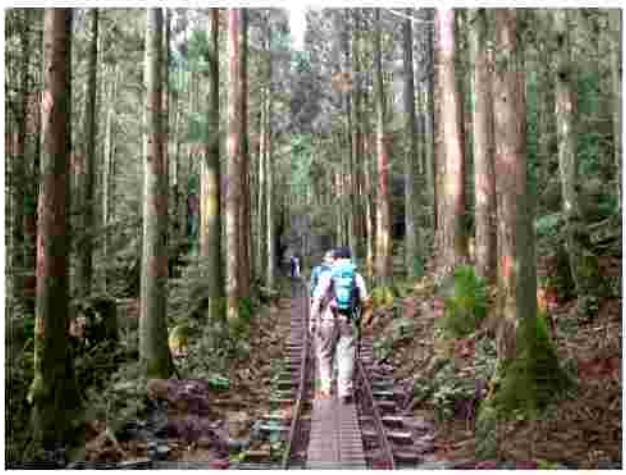
This is "Third Generation Cedar". After the cedar of first generation had been fallen down naturally long time ago, the second generation was grown up top of first one.
Then, the second one was harvested for the lumber use.
The third generation came up from the stub of second one and was grown up two past generations.
They are each called "The renewal of fallen-down tree" and "The stub renewal".
This is not obviously proved, however, it is said that the age of first one is 1200 years, the second one is 1000 years and the third one is 350 years old.

三代目
〔二代目の切株の上に成長したスギです。現在も生きています〕
二代目
〔一代目の倒木の上に成長したスギです。約３５０年前に伐採されました〕
一代目
〔約１，５００年前に倒れたスギです〕

Third generation
grown up on second generation, still existing
Second generation
grown up on first generation, harvested about 350 years ago
First generation
fallen down about 1500 years ago.

林野庁　屋久島森林管理署
Yakushima District Forest Office

三代杉



鹿穴？？

仁王杉（阿形）

仁王杉（吽形）　（8:23）
こちらは倒木になってしまった。

山桜が満開のすばらしい景色であった。

巨大な岩だが角が取れて丸くなっているのは転がってきたか他の石とぶつかって削られた証拠？すごい水量だ。

ここからトロッコ道を離れて山登りとなる。（8:40）

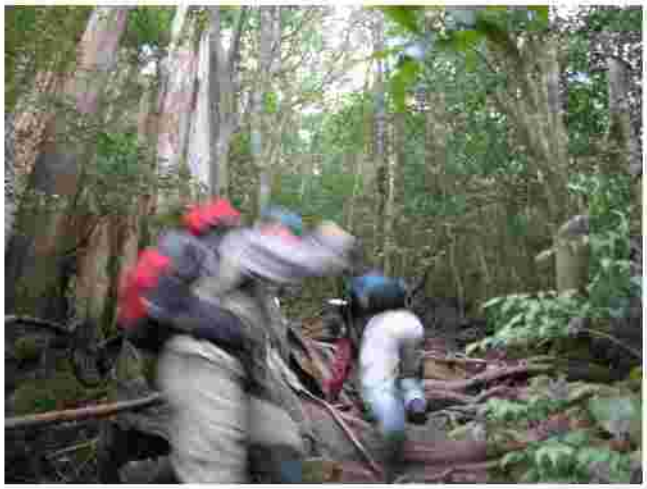
結構きつい坂だ
（9:03）

翁杉
（9:20）

ウィルソン株（標高1100m）　（9:22）

ウイルソン株の中には湧き水がある

ウイルソン株の中から天を仰ぐとハート型に見える



急な坂道もあった

一休み（9:45）

大王杉（標高1200m）
樹高24m、樹齢3千年。縄文杉が発見されるまでは最大の屋久杉といわれた。（10:50）

姫しゃらの大木

いよいよ世界遺産登録に踏み込んだ（10:56）

夫婦杉（両方の枝がくっついている）

屋久杉は年輪が非常に密で樹脂分が多く腐りにくいのだそうだ。

「見ちゃダメ」といって隠されたところはへそ下
（安産のお守りになでていく女性も多いとか）

縄文杉に近くなってきた。標高1300mに上がってきた。霧も出てきた。

霧にかすむ縄文杉（11:28）

縄　文　杉

縄文杉は、昭和41年に岩川貞次氏の紹介により広く知られるようになり、この幹の様子から「縄文杉」と名付けられました。発見されている日本の杉としては一番太いものです。

樹齢は、その大きさによる7200年との説や内側の空洞から採取した木片の科学的計測値での2170年など、色々な説があります。

ここの周辺は、世界遺産登録地、国立公園特別保護地区、森林生態系保護地域といった規制を受けている貴重な森林です。

樹高25.3m　胸高周囲16.4m（直径5.1m）

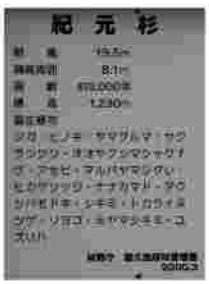
この付近の標高1,300m

いのしし形　倒木の根

屋久鹿

ホテルにて

屋久島旅行4日目（4月16日）



空港近くで
昼食
カメラのセンサー故障
（もうだませなくなった）